



発行日: R03.07.26



A group of seven students, four boys and three girls, are standing in a row in front of a large green chalkboard. They are all wearing light blue school uniforms with dark skirts or trousers. The student in the center is holding a white certificate. All the students are smiling and giving a thumbs-up gesture. The background is a plain green chalkboard.



A group of six male students in light blue shirts and dark trousers standing outside a building. One student holds a certificate, and another holds a red and blue striped object. A sign with Japanese text is visible in the background.



まっている」と話した。調査の結果、桐蔭が優勝、向陽が2位、海南が3位になった。今年の全国大会は未定という。

（直井政夫）

高校生手作り「衛星」打ち上げ



串本で「缶サット」

県内外7校参加桐蔭がV

高校生が自作した空き缶サイズの「模擬一衛軍」の技術などを競う「缶サツト甲子園2020」の和歌山地方大会「朝日新聞和歌山総局など後援」が18日、串本町で開かれた。県内外の7校が参加。手作りの「一衛軍」を打ち上げ、日への成果を披露した。

和歌山大会は2010年に始まり、桐蔭高が10年と18年に全国優勝した。大会では、各校が一衛軍にどんな

独自の機能は、作動させたか否かである。今年の和歌山大会は、県立の桐蔭、向陽、海南、串本古座と大阪府立茨木北科、大阪電気通信大学、兵庫東洋、屋島國中等教育学校の7校が参加した。

各校は衛星に温度、湿度、加速度などが測れる装置をつけた。着地後に自走する小型車を載せたりと、工夫を凝らした。

初出場の串本古座は、1年生の同じクラスのチーム。宇宙に興味をもつ3人が5月から準備を進めた。衛星には加速度センサーで機体を制御する装置をつけた。メンバーの黒野健太郎さん16は、車には、宇宙を身近に感じたい。夢を運んでいけるようにと

大会実行委員長の藤木郁久・桐蔭高教諭は「年々、衛星の技術が向上しているのが心強い。和歌山でロケットや宇宙への機運が高まっている」と話した。実査の結果、桐蔭が優勝、向陽が2位、海南が3位に終わった。今年の全国大会は未定という。

（重井 夫天）

写真左から 2 人目は
本校の鈴木大輝くん